



精神医療センター



がんセンター



循環器呼吸器病センター



こども医療センター

第5回 県立病院機能の あり方検討会

令和7年11月
健康医療局保健医療部
県立病院課



足柄上病院

県立病院機能のあり方検討会

	内容	日程
第1回	県立病院の現状と課題、検討を進める上での視点	終了 令和7年6月30日
第2回	県立5病院の機能及び機能に応じた体制① (循環器呼吸器病センター)	終了 令和7年8月1日
第3回	県立5病院の機能及び機能に応じた体制② (こども医療センター、精神医療センター、がんセンター)	終了 令和7年9月1日
第4回	県立5病院の機能及び機能に応じた体制③ (足柄上病院)	終了 令和7年10月20日
第5回	これまでの議論のまとめ 県立病院間の連携等について 検討会報告書の構成について	令和7年11月21日
第6回	精神医療センター（第5回において御相談）	令和7年12月24日
第7回	検討会報告書まとめ	令和8年2月

目次

- 1 これまでの議論のまとめ（各病院）
- 2 県立病院間の連携等について
- 3 検討会報告書の構成について

1 これまでの議論のまとめ（各病院）

- ① 足柄上病院
- ② こども医療センター
- ③ がんセンター
- ④ 循環器呼吸器病センター
- ⑤ 精神医療センター

1 – ① 足柄上病院

足柄上病院の議論まとめ

<現状認識>

- ・ 小田原市立病院と一体となり、県西地域の基幹的役割を担っている。

<今後の方向性>

- ・ 引き続き、小田原市立病院と一体となり、県西地域の基幹的役割を担う必要がある。
- ・ 今後、ニーズの高まる高齢者救急を強化するとともに、在宅復帰支援や在宅療養支援を強化する。高齢者救急に当たっては、総合診療体制を強化し、必要な人員の確保や、足柄上病院で働きたいと思われるようなブランディングを検討していくことが望ましい。
- ・ 地域包括医療病棟の開設については、地域包括ケア病棟又は急性期病棟からの転換が適当か検討することが望ましい。
- ・ これらの取組とともに、医療資源の少ない地域の実情を踏まえ、医療DXを積極的に活用し、効率的に運営を行うことが望ましい。併せて、実稼働病床数の病床稼働率を踏まえ、200床、もしくはさらにダウンサイジングしてもよいのではないか。
- ・ 人口減少、高齢化が進む中、人員体制等を工夫しながら、高齢者救急や訪問看護、オンライン診療、総合診療等を行っていくことは、県西地域に限らず、人口の少ない地域におけるモデルになりうるので県もしっかりと力を入れてほしい。

1 - ② こども医療センター

こども医療センターの議論まとめ

<現状認識>

- ・ 難治性の高い疾患や先天性の奇形、小児がんなど、他の病院で受け入れることが困難な疾患について全国各地から患者を受け入れているとともに、総合周産期母子医療センターとしても多くの救急を受け入れるなど、高度専門病院としての役割を果たしている。

<今後の方針性>

- ・ 引き続き、小児の高度専門病院としての役割を担う必要がある。
- ・ 医療安全体制において、各診療科を超えた連携を強化するため、総合診療の機能を強化していくことが望ましい。
- ・ 成人期移行の充実や災害拠点病院化について検討していくことが望ましい。
- ・ 一方で、今後的小児人口の減少や、入院の在院日数の短縮傾向を踏まえると、病床規模については削減を検討する必要があるのではないか。
- ・ こうしたことを踏まえ、施設全体の老朽化への対応も検討していく必要があるのではないか。

1 – ③ がんセンター

がんセンターの議論まとめ

＜現状認識＞

- 都道府県がん診療連携拠点病院として、一般の病院では対応することが難しい難易度の高い治療（希少がん手術、ゲノム診療、重粒子線治療等）を行うとともに、臨床研究や治験を積極的に進めるなど、がんの高度専門病院としての役割は果たしている。

＜今後の方針性＞

- 引き続き、がんの高度専門病院としての役割を担っていく必要がある。
- これから高齢化が進んでいく中で、シンプルながんだけ見ていれば済むような患者は減っていくと思われる所以、幅広い併存疾患・合併症に対応できる体制が必要ではないか。
- 一方で、外来治療へ中心が移行をしている中、在院日数も短縮されており、病床規模については削減を検討する必要があるのではないか。
- 重粒子線の治療件数については、全国的に見ても都市部にあることなどから、増加の余地があると考えられるが、中長期的には、粒子線治療等の普及により治療件数は減少していく可能性があるため、あり方について検討する必要があるのではないか。

1 – ④ 循環器呼吸器病センター

循環器呼吸器病センターの議論まとめ

<現状認識>

- ・ 呼吸器分野のうち、間質性肺炎等の難治性呼吸器疾患は、全国的にニーズも高く、県内の他の医療機関では提供が困難な、高度で専門的な医療を提供している。
- ・ その他的一般的な呼吸器疾患や循環器分野については、難易度の高い手術の提供が困難なことや、近隣で対応可能な医療機関が多く整備されていることを踏まえ、高度専門病院としての役割を見直すべきでないか。

1 – ④ 循環器呼吸器病センター

循環器呼吸器病センターの議論まとめ（続き）

<今後の方針性>

- 循環器分野については、他の医療機関でも対応でき、必ずしも県立病院が担わなければならぬものではない。
- 間質性肺炎等の難治性呼吸器疾患については、全国トップクラスの診療実績があり、他の医療機関で担うことが難しいため、引き続き担っていく必要がある。
- 肺がんは、がんセンターでも治療が可能であるとともに、その他の呼吸器分野は地域の周辺の病院で対応できると考えられる。
- 結核は、政策医療として引き続き担っていただきたいが、患者動向等を踏まえると、病床数の削減を検討してもよいのではないか。
- 県立病院として必要な機能は残さなければならないが、施設の老朽化を踏まえ、例えば間質性肺炎等の難治性呼吸器疾患や結核については、再編や統合も検討するなど、現在の形ではない医療機関として変わっていく必要があるのではないか。

1 – ⑤ 精神医療センター

精神医療センターの議論まとめ

<現状認識>

- クロザピンなどの難治性の治療、依存症治療拠点機関、医療觀察法病棟、精神科救急の基幹病院として相当数の患者受入れを行っているなど、高度専門病院としての役割を果たしている。

<今後の方向性>

- 引き続き、精神科医療の高度専門病院としての役割を担っていく必要がある。
- 今後、高齢化により身体合併症が増えることも踏まえると、将来的に精神科単科病院というのは非常に厳しいと考えられ、身体合併症について、外科的な対応は他病院と連携するにしても、内科的な身体管理ができる体制を整える必要があるのではないか。
- 全国的な入院の受療率の減少に伴い、病床規模の削減を検討する必要があるのではないか。一方で、全国的に外来の受療率は増加していることから、近隣医療機関との棲み分けを検討する必要があるのではないか。

1 – ⑤ 精神医療センター

これまでの議論に加えて、

今後、新たな地域医療構想に精神科医療が位置付けられることや、県として「当事者目線の精神科医療の推進」の取組を進めていることから、精神医療センターのあり方について、追加で議論をお願いしたい。

精神科医療の特徴

① 精神疾患を有する者の疾病構造の変化

- ・ 従来は統合失調症が多くを占めていたが、現在は、気分障害、発達障害、認知症、身体合併症を有する等、より対応が困難な患者が増加しており、こうしたニーズに対応する必要がある。

② 身体疾患との違い

- ・ 治療にあたっては、患者の多様な背景や症状に応じた幅と柔軟性が不可欠
- ・ 手厚い看護や介助が必要
- ・ 入院期間が長い など

③ 精神科医療提供体制

- ・ 身体科と比べると、医師や看護師等の人員配置が少ない。

こうしたことを踏まえた上で、県立病院である精神医療センターが大きく変化している医療ニーズに対応した高度専門病院として役割を果たすために必要な今後の機能や体制について、ご意見を伺いたい。

※ 公立及び民間の精神科病院のゲストスピーカーを想定

(参考) 「当事者目線の精神科医療の推進」の取組

No	事業名
1	行動制限最小化推進事業
2	虐待防止対応力向上研修事業
3	精神科病院処遇改善設備支援事業
4	精神科病院入院者訪問支援事業
5	身体合併症連携モデル事業
6	精神保健指定医報酬見直し
7	精神障害者目線の社会検討事業

2 県立病院間の連携等について

- ① 病院間連携の強化
- ② 人材の確保と育成

2 県立病院間の連携等について

【第四期中期目標（抜粋）】

中期目標	3 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 (1) 高度医療の提供 ア 機能の多様化と病院間連携の強化 少子高齢化が進む中で、併存疾患等の対応や多様な医療需要に応えるために、各病院の機能の見直しとともに、医療DXの基盤を整備し、病院機構内の病院間での連携支援など、共同で診療する体制を構築すること。 イ 人材の確保と育成 県立病院の役割である高度・専門医療の提供、地域医療の支援等を確実に行うことができるよう、医療従事者の確保・育成を図ること。 多様な採用方法などにより、質の高い人材の確保に努めること。 各病院の医療従事者について、能力向上に向けた研修を実施するとともに、求められる水準を満たすことができるよう医療従事者へのサポート体制を構築すること。 専攻医や実習生、研修生の積極的な受け入れ、地域の医療従事者との相互研さんや研修の実施などを通じて、医療従事者の人材育成に貢献すること。 病院経営に対する高い経営感覚を有した事務職員の確保・育成に計画的に取り組むこと。

2 県立病院間の連携等について

【第四期中期計画（抜粋）】

第2 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 高度医療の提供

(1) 機能の多様化と病院間連携の強化

イ 病院間連携の強化

- ・ がんセンターと足柄上病院・循環器呼吸器病センターの連携によるがん患者の治療やこども医療センターと精神医療センターの連携による思春期医療の提供等、幅広い医療需要に対する病院機構内及び他の病院との連携
- ・ 画像診断、病理診断等の遠隔システムによる連携

(2) 人材の確保と育成

県立病院の役割である高度・専門医療の提供、地域医療の支援等を確実に行うために、次の取組を通じて質の高い人材の確保、定着及び育成を行う。

ア 人材の確保

- ・ (医師) 大学の医局ローテーションに加え、公募等の方法の検討
- ・ ホームページや民間の広報媒体の活用、就職説明会への参加等の積極的な採用活動
- ・ 経営状況、診療報酬の動向及び職種ごとの実態に合わせた弾力的な採用試験

イ 人材の育成

- ・ 人材育成プログラムに基づくOJTやキャリアステップの段階に応じた研修等
- ・ 実習生や研修生の受入れを含めた養成機関との相互連携

中期計画

2 県立病院間の連携等について

【第四期中期計画（抜粋）】

中期計画

- ・ 地域医療機関の医療従事者との人事交流等を通じた相互研さん
 - ・ （医師）専門医制度における基幹病院としての、専攻医の計画的な受入れと育成
 - ・ （看護師）医療ニーズに基づく専門看護師、認定看護師、認定看護管理者及び特定行為等に係る看護師の養成計画の検討
 - ・ （医療技術職員や事務職員）階層別人材育成プログラムによる、求められる能力の明確化や研修の更なる充実
 - ・ （事務職員）診療報酬や財務事務に関する研修、異なる分野への定期的な人事異動
 - ・ （管理者）高い経営感覚とマネジメント能力を身に付けるための研修の導入
 - ・ 組織・仕事への自発的貢献意欲の把握や職種別離職調査等を通じた職場環境の改善
- (3) 最先端技術の活用と医療機器等の計画的な整備
- 質の高い医療を提供するために、次の取組を通じてＩＣＴ等の科学技術や医療機器等を効果的に導入する。
- ・ 各病院で個別に管理されている電子カルテや部門システムの医療データの統合を通じたデータの一元管理
 - ・ 院内や病院機構全体での共同利用を視野に入れた、医療機器等の計画的な整備
 - ・ シミュレーションに基づく収益性の検証を踏まえた高額医療機器の購入

2 – ① 病院間連携の強化

病院	連携内容	使用ツール/方法
専門病院群  → 足上 	専門病院による遠隔支援 <ul style="list-style-type: none"> ・患者の診断・治療方針のコンサルテーション ・足柄上病院による県西地域の医療提供を支援 	オンライン(D to D) MIP(※)
機構5病院 	放射線・病理の遠隔診断 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院への医療資源の集約化を推進 ・高い水準で診断の質を維持する体制を構築 	遠隔診断システム デジタルパロジーシステム MIP(※)
精神  ← 身体科4病院 	精神・身体の統合ケア <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した迅速な専門コンサルテーション体制の確立 	オンライン(D to D) MIP(※)

※病院間連携の基盤として医療情報プラットフォーム(MIP)の構築(R8~9年度運用開始予定)

2 – ① 病院間連携の強化

【医療情報プラットフォームの構築】

医療DXとして医療情報プラットフォーム（MIP）の構築を推進

アプリケーション

病院間での
コンサル併診

医療現場の
業務改善

経営管理
支援

臨床研究
推進

医療の質・安全の向上



医療情報プラットフォーム（MIP）
各システムの情報を自動で取得し、統合管理を行う

業務効率化

経営改善

臨床研究の促進



2 – ② 人材の確保と育成

【人材確保の取組】



次の取組により医師を確保

- ・ 医局ローテーション
- ・ 人的ネットワークの活用
- ・ 公募
- ・ 専攻医を研修プログラム

終了後に正規職員として採用



医療提供体制確保のため、
医師に対する新たな手当
をR7.4に新設



次の取組により看護師を確保

- ・ 民間の合同就職説明会
- ・ 各病院インターンシップ[°]
- ・ 養成校訪問
- ・ 指定校推薦試験
- ・ 一般採用試験（新卒向け年6回程度）
- ・ 経験者採用試験（年7回程度）
- ・ 修学資金の貸与



コメディカル・事務

次の取組により医療技術職員・事務職員を確保

- ・ オンラインでの説明会
- ・ 大学3・5年生向け就活サイト
- ・ 1DAY職場体験（薬剤師）
- ・ 一般採用試験（新卒向け年複数回）
- ・ 経験者採用試験（年複数回）

2 – ② 人材の確保と育成

【R6年度 人材育成の取組】

医師



- 卒後医師・専門医等の研修プログラムの実施

卒後臨床研修（初期）	内科専門研修
総合診療専門研修	小児総合研修
精神科領域専門研修	放射線科領域専門研修
各病院での専門研修	

コメディカル



- OJTを中心とした人材育成
- 職員の適性や専門能力を生かした
積極的な人事異動

薬剤師 診療放射線技師 臨床検査技師

- 人材育成プログラムの検討・試行
- 適性等を活かした人事異動のためのキャリア面接

事務職



- キャリア形成支援システムに基づく
5病院合同研修（医療安全、臨床倫理、問題解決・リーダーシップ、マネジメント研修）
- 医療安全管理者養成研修の実施

看護師の特定行為に係る指定
研修機関として、機構職員、地域の看護師への研修を実施

慢性疾患看護専門研修を実施し、院内・地域の看護師を育成

- 各種研修の実施

財務事務研修	医療事務研修
新任評価者研修	幹部職員研修
病院経営研修	経営分析能力向上研修
階層別研修（採用2,3,5年目）	

3 検討会報告書の構成について

3 検討会報告書の構成について

構成案

① はじめに（検討会の設置）

② 各病院の概要

③ 各病院の現状と分析

④ 本検討会の意見

- ・ 県立病院が担う機能及び機能に応じた体制

(→2回目から4回目の議論のまとめを反映)

- ・ 県立病院間の連携等

(→5回目のまとめを反映)

⑤ まとめ

〔例：県立病院が担うべき機能を見直し、その機能に応じた規模や体制を整備するとともに、各病院間の連携を推進し、持続可能で効率的な運営を維持することが望ましい、など。〕

⑥ 検討会設置要綱、委員名簿、開催状況